

帯広の森の“成人”に寄せて

帯広の森市民育樹祭実行委員会
委員長 林 光繁

帯広を包み込む400haの森を、百年かけて造ろうという壮大な計画が昭和50年に始まって20年。

これまで延べ10万人近い市民が植樹に汗を流し、森づくりへの意識がすっかり定着、緑にあふれた「田園都市」へ、着実な歩みを続けています。

これからは、植えた木、森を整備し、育てるという「育樹」に重点を置く段階だと思います。さらに、緑ヶ丘公園との連結や見本学習林の設置といった新たな展開を通して、遊びや交流、快適さの備わった森を目指していくべきです。

今年8月、神奈川県立林産試験場の研究員を招いた初のワークショップ（体験学習）が帯広の森で開かれました。間伐材を使ってゲームをし、家具を作るといった体験は、市民が森に親しむ貴重な場といえ、帯広の森の利活用を考える大きなヒントになったと思います。市民有志による育樹祭実行委員会が活動を開始して4年になりますが、このような「楽しむ森」づくりを、将来のテーマにしたいと考えています。

帯広市では、現在の市内緑被率9.9%を平成12年までに20%に引き上げる「緑の倍增計画」を年度内に策定します。その背景には、20年間培われてきた緑化への市民意識があります。

環境と共生する都市・帯広。百年後、二百年後の姿を思い描きながら、これからも地道に帯広の森を育てていきたいと思います。

執筆者紹介

- ・伊藤育子（いとう　いくこ）
1965年　東京都東久留米市生
現　在　帯広市みどりと花の課
執　筆　第2章 §3　森づくり

 - ・池田亨嘉（いけだ　ゆきよし）
1963年　江差町生
現　在　エゾリスの会　幹事
執　筆　第4章 §2　森と野鳥たち （2）
 §4　森と小動物たち

 - ・小野登志和（おの　としかず）
1924年　幕別町生
現　在　野鳥と遊ぶ会　会長
執　筆　第4章 §2　森と野鳥たち （1）

 - ・太田忠紀（おおた　ただのり）
1948年　帯広市生
現　在　帯広市教育委員会　スポーツ課
執　筆　第4章 §7　森のイベント
 (4) 施設区のイベント

 - ・佐々木茂雄（ささき　しげお）
1925年　帯広市生
現　在　帯広の森地権者協議会　会長
執　筆　第2章 §5　帯広の森地権者協議会

 - ・佐藤好則（さとう　よしのり）
1953年　帯広市生
現　在　帯広市みどりと花の課
執　筆　第2章 §6　帯広の森用地取得と整備
 の経過

 - ・酒井隆幸　（さかい　たかゆき）
1950年　帯広市生
現　在　帯広市みどりと花の課
執　筆　第2章 §2　緑化審議会
 第4章 §8　帯広の森褒章
 第5章 §3　帯広の森基金
 第7章　　　帯広の森年表
編　集　グラビア

 - ・畠山茂（はたけやま　しげる）
1950年　足寄町生
現　在　帯広の森少年隊　事務局長
執　筆　第4章 §1　森と子供たち
 - ・松山豊（まつやま　ゆたか）
1949年　帯広市生
現　在　帯広デザイン振興協議会　事務局長
執　筆　第4章 §6　森と親しむ人たち

 - ・野洲健治（やす　けんじ）
1922年　山形県最上町生
現　在　十勝自然保護協会　会長
執　筆　第4章 §3　森と草花・樹たち

 - ・山本雅雄（やまと　まさお）
1950年　帯広市生
現　在　ブルーグラス実行委員会　幹事
執　筆　第4章 §5　森と遊ぶ人たち

 - ・山田英和（やまだ　ひでかず）
1947年　帯広市生
現　在　帯広の森市民植樹祭実行委員会事務局次長
 帯広の森市民育樹祭実行委員会事務局次長
執　筆　第1章 §1　帯広の森の胎動期
 〃　§2　帯広の森構想
 〃　§3　帯広市議会の論議
 〃　§4　市民運動の萌芽
第2章 §1　帯広の森造成計画（牧野案）
 〃　§4　帯広の森市民協議会
第3章　　　帯広の森市民植樹祭
第4章 §7　森のイベント
 (1) 模擬議会とトテッポ
 (2) 帯広の森ティーチ・イン
 (3) 市民環境シンポジウム
第5章 §1　帯広の森市民育樹祭
 §2　利活用計画の見直し
編　集　グラビア
 第6章　帯広の森に関わる論文エッセー
 第8章　新聞記事

 - ・浅野カメラ堂(株)
写真撮影（ポスター、記念品等）

編集後記

十勝が好きです。生まれ育った所だからなのかも知れませんが、十勝の自然・風土が織りなす模様が好きなのです。そして出会った人が好きです。これが私の原風景で、多分価値軸の原点なのだと思います。

10年前、仲間と一緒に記念誌をつくろうと決めてから、10年たって20年誌をつくることができました。書き足りない事(虫に関する事等)、書き過ぎた事等、発表するに内心忸怩たるものがたくさんあります。

帯広の森に関する冊子が、又いつか新しい市民によって発刊されることと思います。その時帯広の森は、今思い描く森となっているだろうか。心配な中にも楽しみな事です。

今回、記念誌をつくるに当たり、帯広市より補助金をいただき、みどりと花の課を始め、市役所の皆様方に、助言やご指導、そしてお忙しい中、無理な注文の資料さがしをしていただき、感謝申し上げます。

又、20周年記念事業に要する費用の半分は、帯広市内はもとより、道内多くの個人、団体、企業の皆様から協賛をいただきました事、御礼申し上げます。

市民の皆様には、20周年記念帯広の森作文に多数の応募をいただき、ありがとうございます。応募された全作文と、今年の植樹祭参加名簿等は、全てタイムカプセルに永久保存いたします。

最後になりましたが、執筆された方におかれましては、気持ちよくお引き受けいただき、感謝に堪えません。ひとつとして欠けていけば、次に残す資料として不満足な形になっていたことと思います。

尚、文中敬称は省略いたしました。

これからの帯広の森づくりへの気持ちを、ウィリアム・ブレイク（英、1757～1827、詩人・画家）の詩に寄せてみたいと思います。

十勝の緑の楽しき大地の上に
聖なる都を築きあげるまで
心の内の闘争を止めまい
剣を手の中に休めることもすまい

〔「明日の田園都市」鹿島出版会〕

註 原文は、「十勝」が「イングランド」です。

平成6年12月5日 山田英和

帯広の森20周年記念実行委員会

記念事業

1. 20周年記念帯広の森作文 公募
2. タイム・カプセル埋設
3. 20年史誌の発行

実行委員会

顧問 小室吉助、西 武
委員長 棚瀬善一
副委員長 林光繁
相談役 飯島誠、岩淵誠、佐藤耕一、佐野孝子
紫竹昭代、古川勝巳、森山澄子
松井栄、尾関昇、池田啓介、大滝栄子
小野登志和、長村貞子、篠河玲子
千田慶子、野洲健治
監 査 香田八重子、斎藤雅俊

専門部会長 山田英和
副部会長 山田哲、関寛
編集部 関口好文、佐野まきの、柴田和男
渋谷洋一、鈴木隆、白尾まどか
清原三枝子、石原由美子、大滝智子
事業部 星久保吉正、成澤靖幸、佐野公彦
奥周盛、菅野好治、田中康雄
会計部 渡辺和寛、三日市則昭
事務局 山田良栄

帯広の森20年史

帯広の森 私たちと帯広の森づくり

発 行 日 1995年 3 月30日

発 行 所 帯広の森20周年記念実行委員会
20年史編纂委員会

事務局 帯広市西 7 条南16丁目12 山田方

編集責任者 山田 英和

デ ザ イ ン 佐野まさの

印 刷 所 東洋印刷株式会社

帯広市西10条南 9 丁目 7

帯広の森20周年記念実行委員会

私たちと帯広の森づくり

帯広の森

